

はじめての

万葉集

[vol.84]

日本に現存する
最古の和歌集「万葉集」を
わかりやすく紹介します

[vol.84]

大名児が彼方野辺に刈る草の 東の間もわが忘れめや

日並皇子 卷二（一一〇番歌）

大名児が遠くの野辺で刈る草の、
ほんの東の間も私は忘れるなどということがあろうか。

くさ
かべの
みこ

草壁皇子の 恋の歌

いきなり女性の名前から始まる
この歌は、題詞によると日並皇子尊
が石川女郎に贈ったもので、女郎の
名が大名児だったと説明されていま
す。日並皇子尊とは草壁皇子のこと
です。「日並」は贊美を込めた呼び方

で、「万葉集」ではこちらが使われま
す。天武天皇には高市皇子や大津
皇子ら十人の皇子がいましたが、皇
后（後の持統天皇）との間の子であ
る草壁皇子は次の天皇候補として
尊ばれています。

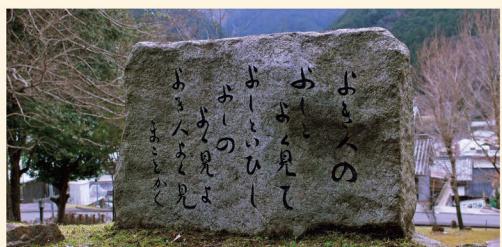
さて、この歌の直前、一〇九番歌の
題詞に「大津皇子の竊かに石川女郎
に婚ひし時に、津守連通のその事を
占へ露はすに：」と書かれています。
「竊かに」という語は卷一の中に四例
あり、いずれも行つてはいけない女性
のもとに行く場合に用いられます。
なぜ、大津皇子は石川女郎に通つて
はいけなかつたのか。それは、隣り合
う一〇番歌と併せると、石川女郎
は日並皇子の恋人だったから、と読
み取れます。その状況をふまえて大
津皇子の歌「大船の津守が占に告ら
むとはまさしくに知りてわが二人宿ね
し」（大船の泊る津守が占いに現わす
だらうことを、まさしく知りながら

私は二人で寝たことだ／一〇九番
歌）を読むと、大胆不敵な表情まで
想像できそうです。

その大津皇子の歌に続いて、日並
皇子が大名児（石川女郎）を思う恋
の歌が載せられています。「彼方野
辺に刈る草」は「東」を導く序（前置
き）です。今でも「つかの間」という表
現を使うことがありますが、「万葉
集」で既に使われています。「つか」と
は一つかみ、指四本分ほどの短さを
表します。そんな短い間も忘れるわ
けがない、という表現に石川女郎への
執着が伝わってきます。

この時に、天武天皇が詠んだと
される歌（「万葉集」卷一・二七番
歌）も伝わっており、吉野歴史資料
館に万葉歌碑があります。

吉野の盟約



問吉野歴史資料館 ☎0746-32-3081
所吉野町宮滝348 時9時～17時
(3～11月の土曜・日曜・祝日のみ開館)
※詳しくは吉野歴史資料館HPへ。

吉野歴史資料館 検索

万葉ちゃんの
つぶやき



万葉ちゃん